令和２年度東部地区小・中学校等５年経験者研修（選択コース）　まとめ

１　実施について

（１）実施：机上研修（レポート提出）
（２）参加者　　小学校　１６９名
　　中学校　　８０名

２　研修参加者のレポートから（抜粋）

（１）「良い授業を見つけ！広めて！学力 UP 事業」映像視聴

①小学校

・今まで学級会を行ってきて感じたことは、話合いのめあてを児童にしっかり押さえなければいけないということである。教師の話で、児童とめあてを再確認する場面が動画の中でもあったので、私も実行していきたいと思う。
・子供の考えを一度認めながら助言するなど、子供たちの自主性を大切にしながらも、教師の適切な指導の下で話合いが展開されており、子供・教師それぞれの視点を大事にすることで、よりよい話合い活動がつくられていくのだと気づかされた。
・本動画を視聴して、重要だと感じたことは「個に応じた指導」である。「個に応じた指導」を可能にしていくには、日々の学校生活の中で児童を見取ることである。そして、支援していく際には、それぞれの児童にとって何が支援にあたるのかを考えていく必要がある。あくまでも児童の学びが活発になるための視点で支援方法を吟味し、行っていくことが学びの達成感につながるのではと感じた。
・校内の先生方も若くなっており、ベテランの先生の授業を学ばせて頂く機会も少なくなっているので、大変貴重な機会となりました。同じ授業を今学期行ったので、自身と比較して視聴させていただきました。

②中学校

・自身が担任をしている学級で学級会を行ったことはこれまでに何度もあったが、今回視聴したような学級会はできていなかったため、大変勉強になった。１時間の学級会の中に、学級の生徒全員が主体的に学級会に参加できるような工夫がたくさん盛り込まれていた。
・小学校の学級活動で行っていることを中学校でも活かし、より質の高い学級活動を展開したいと思い、この学級活動の動画を選んだ。日頃から何気なく行っている指導の意図について理解を深めることができた。また、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業展開の工夫や指導法を、それぞれの場面ごとに学ぶことができた。
・学級会は、教師主導ではなく、生徒が主体となって円滑に会が進められていることに驚きました。普段行事の準備などでなかなか学級会の機会を確保できないのでが現状ですが、この動画を見て、実践してみたいという気持ちになりました。計画委員を輪番にすることで全員が体験できること、円滑な進行のために事前の準備がとても大切ということ、議題は学級の現状と課題を踏まえて決定していくことなどを学ぶことができました。
・朝の会の「先生の話」では、事務的な話だけでなく、短学活として一人ひとりが居心地の良い１日にしていくことやクラスがより良くなるために話していきたいと思った。また、毎朝黒板に担任からのメッセージを書いていて、登校した生徒から読んでくれているので、その内容にも触れながら、今後も朝の会や帰りの会の時間を大切にしていく。

（２）レポート（小学校のみ）

①選択教科

教科	人数	教科	人数
国語	４６	家庭	０
社会	３	体育	１１
算数	５２	外国語活動・外国語	５
理科	８	特別の教科　道徳	１８
生活	１	総合的な学習の時間	３
音楽	３	特別活動	１５
図工	３	特別支援（自立活動）	１

②「今後に向けて」より抜粋

・ユニバーサルデザインの視点を用いて授業づくりすることで、全員が授業に参加し、考えている姿を多く見られるようになった。楽しく、分かりやすい授業を作ることで学習への苦手意識をもっていた児童も、学ぶことへの抵抗を少なくすることができるようになってきている。一方で、主体的・対話的で深い学びとなるような工夫が必要な部分は多い。これまでは、導入や板書に力を入れていたが、展開から終末にかけても児童理解を深めた上で工夫し、適切な発問ができるようにしたい。また、個に応じた支援を必要とする児童もいる。それらの児童も含め、自分自身の取組を振り返りながら、授業づくりや学級経営に努め、全ての児童の力を伸ばせるようにしていきたい。

・コロナウイルスの影響もあり、ここまでの活動は個人で考え、個人対個人で交流するというものばかりであった。その結果「目的を共有して協働するための能力」の育成につながる活動が実施できていないことが課題である。これからは、小グループで目的を共有して、協働できるような活動を取り入れていきたい。

・研修を通して、構造的な板書や発問の工夫を中心に授業を構成してきた。本研修での授業の公開後、反省点を生かした授業を校内で公開した。そして、反省や指導内容をそのままにせず、修正を加えて次の授業を行った。授業改善するとともに、さらに次への課題を見つけることができた。

・PDCAサイクルの視点をもって自身の授業を考えてみると、「Check」から「Action」を改善しなければならないと考える。どの教科でも、その授業で児童に何を身に付けさせたいのか、何を理解させたいのかをあらかじめノートに書き記し、課題からまとめまでの流れを事前に想定して授業に臨んでいる。しかし、授業を行ったあと、児童の活動の振り返りはしても、自身の授業についての振り返りや改善策を考えることは毎回できているとはいえない。特に、学級活動や道徳など週に１回の授業では、その１回をやって終わりになってしまっていた。今後は、自身でPDCAサイクルを意識した教材研究、授業実践に努めていきたい。児童が課題を把握し、学習活動を辻て課題を解決、そして、その先にまた新たな課題を見つける。そんな生き生きと児童が学びを楽しめる学習の場を作っていく。そのためにも、児童の実態や力を把握し、多種多様な学習活動を準備し、目の前にいる児童に合った学習を今後PDCAサイクルを実践していく中で行っていく。